

「森と木のいえ MIRAI シンポジウム」開催



当協会は、「森と木のいえ MIRAI シンポジウム 実行委員会」（国土緑化推進機構・緑と水の森林ファンド助成）事務局として、神泉風來講堂において4月26日の午後13時30分から17時30分の日程で、シンポジウムを開催しました。参加者は、会員44名、非会員43名、プレス11名、名誉会員の東京大学名誉教授の有馬孝禮先生、横浜国立大学名誉教授の矢田茂樹先生など総勢119名。実行委員会メンバーは、（公社）国土緑化推進機構、（一社）木のいえ一番振興協会、（一社）国産材を使った木造住宅を守る会、東京木材市場協会、認定NPO法人JUON(樹恩) NETWORK。

開会に当たり、国土緑化推進機構の青木正篤（あおき まさあつ）常務理事が主催者を代表して挨拶し、林野庁木材産業課木材製品技術室の川原 聡（かわはら そう）課長補佐に来賓を代表してご挨拶をいただきました。

続いて基調講演にうつり、木構造振興株式会社の山田壽夫（やまだ ひさお）社長は「これからの森づくりと木材利用」、京都造形芸術大学大学院客員教授の中村利則（なかむら としのり）先生は「住まいの文化とこれからの木造建築」、北海道立総合研究機構・建築研究本部長・兼北方建築総合研究所の鈴木隆大（すず

き ひろたか）所長は「省エネとこれからの木造建築」と、それぞれの専門分野についてお話しをいただきました。なお、国土緑化推進機構の荒井秀夫前基金管理部長が、京都京北町の林業報告をしました。

基調講演の後は、以上3名の講師のほかに、丸宇木材市売株式会社の押本雅壽（おしもとまさかず）社長、株式会社シンケンの迫英徳（さこ ひでのり）社長に参加いただき、新建新聞社社長で、当協会の三浦祐成（みうら ゆうせい）理事の司会進行で、「森と木のいえの未来」をテーマに討論して頂きました。

基調講演及び討論の内容は、次号以降で紹介する予定ですが、参加者を対象に実施したアンケート結果（回答数52）によれば、基調講演、討論ともに大変好評で「住宅と国産材利用の今後について哲学的なことからも含めて深く考えさせられた良いシンポジウムだった。」などの声も寄せられており、設立5年目を間近に控えた「木のいえ一番振興協会」としてその存在感を高めるうえで、大きな成果をあげることができました。

講師ならびにパネラー各位、お忙しいなか、司会進行を引き受けていただいた三浦社長、それに多くの参加者の皆様、ご後援・支援・ご協力を頂きました各位に厚く感謝申し上げます。

（木のいえ一番振興協会 現わし部会）